

鳥取大学ビジョン 2030

(令和3(2021)年7月27日制定)

■鳥取大学憲章（平成27(2015)年4月21日制定）

鳥取大学は、明治7年設置の小学教員伝習所を起源とする鳥取師範学校と鳥取青年師範学校、大正9年に設置された鳥取高等農業学校の流れをくむ鳥取農林専門学校、及び昭和20年に設置された米子医学専門学校を前身とする米子医科大学を包括して、昭和24年に国立学校設置法による新制国立大学として、学芸学部、農学部、医学部の3学部で発足した。昭和40年には地域の産業育成を目指し工学部が設置された。

前身校時代から現在まで、実学を重視して、人類が蓄積してきた知識を駆使し、地域社会が直面する課題に果敢に挑み、人々の生活の向上と産業の育成を通して地域に貢献してきた。同時に、問題の解決を探究する中から人類に有用な普遍的知識を見出して世界に発信し、平和な社会の建設と人材の育成や学術の進歩に寄与してきた。

鳥取大学は、常に地域に寄り添う姿勢を堅持するとともに世界を視野に入れた活動を行ってきた。様々な価値観が交錯するグローバル時代を迎えて、多様な文化や考え方があることを理解し、少数者や厳しい条件下におかれている人々に対する思いやりの心を持ち、社会に対する責任を果たすことを行動の規範とする。

鳥取大学の基本理念「知と実践の融合」

鳥取大学は、このように実学を中心に地域とともに歩んで世界へ展開してきた伝統を重んじ、これからも知識を深め理論を身につけ、実践を通して地域から国際社会まで広く社会に貢献することで、知識をさらに智慧に昇華する営みを志向していく。すなわち、理論と実践を相互に触発させ合うことにより問題解決と知的創造を行う「知と実践の融合」を本学の基本の理念とし、教育、研究及び社会貢献に取り組む。

鳥取大学の目標

鳥取大学は、「知と実践の融合」の基本理念のもと、人々が安心して暮らすことのできる未来を創るために前進していく。地球規模の課題の克服も身近な地域課題の解決から始まり、地域の問題は地球的視点で取り組むことが必要であり、そして何よりも人類の幸福のために役立たねばならないとの認識から、次の3つの目標を掲げる。

1. 社会の中核となり得る教養豊かな人材の育成
2. 地球規模及び社会的課題の解決に向けた先端的研究の推進
3. 国際・地域社会への貢献及び地域との融合

鳥取大学は、今日の本学を築きあげた先達の労苦に思いをはせ、誇りある伝統を受け継ぎ、つづく後進が恭敬の念を持ってこの学び舎を引き継ぐことができるように、持てる力のすべてをかけ目標の達成に努めていく。

■中島学長「3つの方針」（平成31(2019)年4月）

- ① 学生が成長を実感し、達成感と満足感を持って卒業、修了し、鳥取大学で学んで良かったと思うような大学
- ② 学生と教職員を大事にする大学
- ③ 社会や地域から必要とされる大学

=====

2030年に向けて

「鳥取大学ビジョン2030」

我が国は急速な人口減少、高齢社会を迎えています。また東京圏への一極集中もとまらない状況にあります。これは自然災害の多い我が国にとって安全上の面からも、また健全な国土を守っていく上からも決して好ましいこととは言えません。そのような中、地方*にある大学としては、その地域の特性を活かし、地域をもり立て、地域創生の核となることがますます強く求められるようになってきています。

同時に、感染症や地球環境問題、経済格差など世界全体で解決を目指すべき待ったなしの課題も突きつけられており、グローバルな視野で世界に貢献する活動が必要とされています。

国連の持続可能な開発計画、気候変動枠組み条約におけるパリ協定の採択など、2030年までの期間は、我が国及び世界の将来にとって大変重要な時期になっています。鳥取大学憲章にうたっている「多様な文化や考え方があることを理解し、少数者や厳しい条件下におかれている人々に対する思いやりの心を持ち、社会に対する責任を果たす」という行動規範、及び「実学を中心に地域とともに歩んで世界へ展開してきた伝統を重んじ、これからも知識を深め理論を身につけ、実践を通して地域から国際社会まで広く社会に貢献することで、知識をさらに智慧に昇華する営みを志向」する「知と実践の融合」の理念はますます重要になってきています。

〈地域に根ざし国際的に飛躍する地（知）の拠点大学〉

本学は第3期中期目標期間において、「地域に根ざし国際的に飛躍する大学」を目指し3つの戦略をたてるとともに、全ての学部、研究科の改組を実施し、教育、研究の機能強化を進めてきました。3つの戦略においては、乾燥地域の持続的発展、医療技術開発、地域創生を目標に、学内の広い分野の研究者の参加による研究、また改組においては旧来の専門分野の枠を越える教育体制の整備を進めました。

これまでの取組の成果を受け継ぎ、本学の憲章の理念を踏まえ、我が国と世界が持続的に発展してゆくための重要な10年に向けて、さらなる分野を超えた全学の連携、地元及び国内外の地域との共創により、不透明な時代の課題の解決に向けたイノベーションの創出を目指す人材養成と研究開発を進めてゆきます。鳥取県に設置されている責務を理解し、特色を活かして、「地域に根ざし国際的に飛躍する地（知）の拠点大学」として、勉学を目指す人たちから選ばれ、世界から評価される研究を展開し、社会から信頼され地域に必要とされる大学を目指します。

*内閣府「まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、東京圏以外を地方としている。

【目指す鳥取大学像Ⅰ】 充実した QOCL (クオリティ・オブ・カレッジライフ) で学びたい
人に選ばれる大学

2030 年に向かってグローバル経済・社会は複雑化するとともに、AI の進歩により人間の果たす役割が大きく変化する一方、環境も激変する予測不可能な時代が到来すると予想されます。このような世界の情勢の中で、本学の憲章の目標である、「社会の中核となり得る教養豊かな人材の育成」を目指し、専門性と幅広い教養を身につけ、変化する時代を支え改善する資質を持った人材を育てる教育を進めます。そのために「Quality of College Life の充実」を可能とする取組を進め、一人一人が成長を実感しつつ達成感と満足感を持って卒業・修了することができ、学んでよかったと思われる大学、学修者から選ばれる大学を目指します。

学びの需要に応える教育

新しい社会のニーズに応える専門教育

▷ SDGs、Society5.0 が目指す社会の教育

地域から地球規模までの課題を理解し、最新の知識や技術を駆使してその解決に果敢に挑戦し、新しい時代を切り開き、イノベーションを起こすことのできる人材を養成する専門教育を行ってゆきます。

▷ 時代のニーズに応える教育

本学は、学部・研究科の改組を通して従来の専門の枠組みを超えて、柔軟に教育プログラムを構築する体制を整えてきました。学修者の学びのニーズと社会のニーズを見極め、変化の激しい社会において身につけるべき専門知識の体系をつねに模索し、カリキュラムの見直し改善を進めます。

新しい社会に求められる人間力を身につける教育

▷ ますますタフな鳥取大学グローバル人材の養成

本学では、グローバル人材育成推進事業や、鳥取大学グローバル人材育成教育 (TOUGH) プログラムを実施し、開発途上国などの過酷なフィールドでの実践教育プログラムを通じ、タフで実践力のある人材を育ててきました。2030 年に向けてこれを発展させ、「ますますタフなグローバル人材」をキーワードとし、海外での実体験と国内でのハイブリッド型ワークショップ、本学の特色である日本人等学生と留学生との協働チーム G-frenz の活動、地域社会での協働実践など、多層的な協働の実践教育プログラムを展開します。これにより、深く考え抜く力 (省察力) を土台とし、自律的に行動するグローバル人間力、相互作用的にツールを活用するグローバルリテラシー、異質なグループにおいて相互に関わりあうグローバルコミュニケーション力を備えた人材を養成します。

▷ 実践力のある人材の養成

本学ではいずれの学部においても、地元及び海外の地域をフィールドとする特色ある実践教育を行っています。さまざまな地域の実情を学ぶとともに、協力して課題を見つけ、その解決策を探ることを通じて、真の実学を身につけた実践力のある人材を養成します。

▷ 充実したリベラルアーツ教育による創造性豊かな人材の養成

E ラーニング教材などもフルに活用してリベラルアーツ教育を充実させ、人間や歴史、文化、自然、社会等についての理解を深め、幅広い教養を身につけた、自ら考え学ぶことのできる人材を養成します。

▷ グローバル社会、デジタル社会で活躍できるリテラシー

地球規模の問題、国際的な問題を理解し、グローバル社会で活躍できるリテラシーを身につける教育を行います。数理・データサイエンス・AI に係わる基本的な知識から、それぞれの専門分野において活用できる能力を身につけることができる体系的なカリキュラムにより、デジタル社会で活躍できる人材を養成します。

快適に学べる教育環境

学修効果が上がり成長が実感できる環境

▷ 学修者本位の自ら学ぶ教育の効果の最大化

学修者が、何を学び何を身につけることができたかを自覚して、自己の目標に向かって主体的に学びを進めることができる体制を整備して、学生一人ひとりにとって最適な、学修効果が上がる教育を進めます。

▷ 質の高い教育の保証

教育プログラムの点検・評価を実施するとともに、学修者を支援する教職員の能力開発を進め、常に質の高い教育を行ってゆきます。

誰もが効率的に学べる環境

▷ 教育のデジタルトランスフォーメーションの推進

デジタル技術を取り入れ、オンラインと対面教育の効果的な組み合わせ、VR、AR などの技術を活用した疑似体験による学びの深化など、先進的カリキュラムの開発を進めます。

▷ 多様な学修者に対応した学修環境

学ぶ上での障害がある人、仕事を持つ社会人のような時間に制約がある人、言葉の壁を感じる人など、学修者の個別の事情に配慮し、誰もが自分に合った学びが出来るよう学修環境の整備を進めます。

日々の活動の中で成長できるキャンパスライフ

▷ 多様な人材が交流するキャンパス

留学生や社会人学生、企業人や地域の住民など、多様な人材が集まり交流するキャンパスをつくりまします。大学憲章の精神である、「多様な文化や考え方、少数者への理解」を進め、多様な個性、価値観を尊重し偏見や差別のないキャンパスを目指します。

▷ 学生支援体制

心身の健康維持を支援する相談や診療の体制を充実させます。また教室外の学修や、正課外の活動に利用しやすい施設環境整備を進めます。キャンパス内だけではなく地域における活動も支援してゆきます。

ステークホルダーとともにつくる学び

▷ 在学生・卒業生の参画

在学生や卒業生に対して広く本学における学修に関する意見を求め、カリキュラムの見直しや学びの環境整備につなげてゆきます。

▷ 高等学校との連携

高校生に対する出前授業・模擬授業や研究紹介、キャンパス見学、関係者との意見交換会、さらに実践的教育への支援など、高等学校の生徒が大学での学びについて理解を深めることが出来るようにするとともに、入学者選抜方法についても改善を進め、高等学校から大学に円滑に学びを進めることが出来るようにします。

▷ 地域社会・産業界との連携

地域社会や産業界との交流を深め、地域における多様な知にも視野を広げて教育に取り入れてゆきます。職場体験や学生も参加した共同研究、実務家による講義などを実施するとともに、学生の就職先からの評価をカリキュラムの改善につなげ、学生が円滑に社会に飛び立てる教育を行います。

【目指す鳥取大学像Ⅱ】 「地域と世界に信頼される研究力」、「地の知を世界へ、世界的知を地域へ」 ナンバーワンの研究、オンリーワンの研究で国内外をリードする研究推進大学

本学の持つ強み、特色を活かして、複雑化、深刻化する地域及び世界の課題、カーボンニュートラルを目指す社会の課題に挑戦し、成果を世界に発信するとともに本学の立地する鳥取県及びその周辺の地元地域に還元します。「地域と世界に信頼される研究力」、「地の知を世界へ、世界的知を地域へ」を合い言葉に、本学の憲章の目標である「地球規模及び社会的課題の解決に向けた先端的研究」により研究推進大学を目指します。

世界トップレベルの研究、特色のある研究

本学では、乾燥地科学、バイオ創薬、染色体工学、地域学や、菌類きこ遺伝資源活用、マリンバイオ資源活用など、地元地域の課題解決や資源活用などを発端として生まれた、本学ならではの特色ある多彩な研究を進めてきています。地域の拠点大学として、地域にある特色を十分に活用するとともに、地域課題の解決から世界に展開する本学の研究の遺伝子を受け継ぎ、それぞれの分野で国内外をリードする研究推進大学として発展することを目指します。

社会に貢献する研究

大学憲章において「地球規模の課題の克服も身近な地域課題の解決から始まり、地域の問題は地球的視点で取り組むことが必要であり、そして何よりも人類の幸福のために役立たねばならない」と述べているように、さまざまな地域社会の課題の解決に挑み、人々の幸福に貢献できる研究を進めてゆきます。

本学の立地する鳥取県周辺には、過疎・高齢化が進む地域が多くあり、また本学が得意とする海外のフィールドは、乾燥地や発展途上地域が多くあります。このように本学は国内外における限界的な地域における、産業、教育・福祉、保健・医療、これらを支える社会基盤や防災などに係わるさまざまなテーマに取り組んできています。SDGs が目指す「誰一人取り残さない」世界の実現のために、これらの地域と連携した研究を推進し、当該地域に寄与するだけでなく、その成果を他地域へも普及させる活動を進めてゆきます。

また、強み、特色のある先進的研究から生まれる成果を社会に実装するとともに、地元地域の産業創出、活性化に活用する取組を進めてゆきます。

価値ある研究成果を創出する研究マネジメント

研究の創出と推進、社会への貢献

▷ 戦略的な研究開発のマネジメント

URA オフィス、産学連携オフィスを中心にして、全学の研究活動を常に俯瞰的に把握し、学内組織間の連携によるシーズ育成、研究プロジェクトの推進、国内外の研究機関や産業界との連携などを進めます。単なる役割分担での異分野連携にとどまらず、分野の垣根を越えた対話に基づき、共に考え、創出

する共創型異分野融合を進めます。

▷ 研究による地域共創

地域の人々、学生、教職員の共創による地域参加型研究を推進し、地域課題解決の研究を国内外に発信するとともに、研究成果の社会実装を進めます。

▷ 中長期的な研究育成

本学の学術研究に係る調査分析を進め、次世代を見据えた、強み、特色となりうる研究シーズを育てる研究戦略を策定し、戦略的に研究プロジェクトを推進します。また次世代を担う若手研究者を育てる研究支援を進めます。

研究環境の整備

▷ 研究資金戦略

強み、特色のある研究、次世代を育てる研究を推進する戦略的な学内予算の投資により研究力を高めます。競争的外部資金の獲得、共同研究資金の獲得を増やす取組を進めます。

▷ 研究推進体制

デジタル技術も活用して、研究推進上の技術的支援、機器の共同利用、分析支援の体制を強めるとともに、それに係わる人材の育成と活用を進めます。また、電子ジャーナル・データベース等の学術情報基盤及び研究成果の発信体制を充実させます。

【目指す鳥取大学像Ⅲ】 COC（センターオブコミュニティ） 社会に信頼され地域に必要とされる地（知）の拠点大学

本学では2013年からのCOC事業、2015年からのCOC+事業の実施等を通して、人材養成や地域課題を解決する取組などにより地元地域に貢献してきました。これを引き継ぎ、本学の憲章の目標である「国際・地域社会への貢献及び地域との融合」のもと、様々なステークホルダーと協働・連携して、地域の創生・イノベーションに貢献する研究や教育を推進するとともに、養成した人材の地域における定着・活躍を促進し、知的・人的リソースを地域の活性化へとつなげてゆきます。また、透明性を確保し、社会に開かれた自律的な大学の経営を進めてゆきます。このような活動を通して、社会に信頼され地域に必要とされる大学を目指します。

地域の健全な持続・発展に貢献する活動

地域における創生・イノベーションの担い手となる人材の養成

▷ 地元で活躍する人材の輩出

地元地域をフィールドとし、学生が現場実践を通じて主体的に学ぶ教育を推進し、人口希薄化地域の創生・イノベーションに必要とされ、担い手となる人材を養成します。

教育、研究、その他の活動を通して学生が地元地域の産業と関わり興味・関心を持つ機会を増やし、人材の地元への定着を進めます。

▷ リカレント教育による地域人材の養成

本学の多彩な知的・人的リソースを活用し、社会人に対して、地域の創生・イノベーションに必要とされる資質・能力を獲得・アップデートするとともに、それを支えてゆける教養を身に付ける機会を提供します。

地域の多様な要請に応える

▷ 地域の創生・イノベーションに貢献する研究の推進

人口希薄化地域が抱える様々な課題に対し、新たな産業・雇用の創出、社会システムの再構築等を図るのに役立つ研究を、地域の自治体や産業界のパートナーとの密接な協働・連携の下で推進し、地域の創生・イノベーションに貢献します。

▷ 地域の様々なステークホルダーとの共創

地域の自治体、産業界、教育界や高等教育機関、金融機関等との協働を拡充・深化し、産学官金民の連携を強化して、地域創生の恒常的なプラットフォームへと発展させます。鳥取県に唯一の国立大学としてリーダーシップを発揮して、地域連携を推進し、地域の発展のために貢献します。

高度な医療体制の実現

▷ 先進的医療の推進

診療科の壁をなくした低侵襲外科センターにおける高度なチーム医療、臨床解剖教育研修センターを活用したロボット手術等の新たな術式開発、遠隔手術、AIの活用、若手医療者への技術・倫理教育の強化などを通して、未来志向で、安全性の高い先進的医療、地域格差のない医療を目指します。

行政や地域と連携して将来像を見据えた病院再開発に向けて検証を行い、先端技術を取り入れたオンリーワンの病院として発展することを目指します。

▷ デジタル技術を活用した医療連携の推進

WEBを活用した診療予約システムとして運用を始めた「紹介統合WEBシステム」の全医療機関への早期普及を目指します。電子カルテシステムを強化し「鳥取県医療連携ネットワークシステム（通称：おしどりネット）」の中心的医療機関としての役割を担っていくとともに、患者情報を共有して病院間カンファレンスを促進するなど、地域住民への質の高い安全な医療提供に寄与してゆきます。

医療で地域を支える

▷ 地域医療人材の養成

医学教育総合センターを中心として卒前卒後の医学教育部門が連携し、科学的探究心を持ち、専門家としての責務を自覚した人間性豊かな医療人、地域や社会の医療を取り巻く急速な変化に対応し、山陰地域の医療を守り、けん引、発展させる医療人など、社会に貢献する優れた医療人を養成します。

▷ 地域医療機関との連携

鳥取県西部圏域における急性期四病院と締結した協定をもとに、幅広い分野における連携を進め、当地域の基幹病院として地域医療に貢献します。

さらに、島根県東部及び鳥取県中部・東部圏域の医療機関との連携に向けた協定の締結や、行政担当者等の実務者も交えた協議による急性期病院・回復期病院の連携を進展させ、山陰地区の医療連携の推進に寄与してゆきます。

▷ 医療産業の育成

本学はAMEDの「次世代医療機器連携拠点整備等事業」の国内拠点の一つに選ばれ、医療機器開発人材養成の場として病院を開放して事業を展開しています。医療と工業の両分野に明るい医療産業人材、医療産業を熟知し、その定着・拡大に資する医療産業支援人材の養成を進め、地域医療産業の活性化に貢献します。

診療科横断連携体制と医工農連携による研究開発体制を背景に、地方自治体、企業などとも連携して研究開発プロジェクトを推進し、医薬品・医療機器等の開発・製品化を進め、医療産業集積地域の構築を目指します。

▷ 地域への情報発信とブランディング

これまで約2000名の市民が参加した「病院ツアー」と称するバックヤードツアーなど、病院の見える化や広報に精力的に取り組んでいます。最新医療はもちろん、広く健康関連情報を地域住民に届ける

ため、より積極的な広報活動、公開講座などを開催します。さらに、SNS、ラジオ、先進的な広報誌などの出版物を活用し、医療のみならずこの地域や本病院の文化を全国に向かって情報発信することでブランド力の強化に努めます。

また、病児保育をはじめとする保育環境の整備や「ワークライフバランス支援センター」におけるキャリア支援等の継続的な取り組みを通じて、全国から人材が集まる働きやすい病院としてのブランド力を高めていきます。

自律性と透明性の高い経営

効率的な大学運営の実現

▷ 存在感のある大学を実現する経営

本学の活動情報の把握と分析をもとにした的確な経営判断を行います。ビジョンを共有し、学長のもとで丸となってその達成を目指し、社会に信頼され地域に必要とされる「地域に根ざし国際的に飛躍する地（知）の拠点大学」として、その価値と存在感を高めます。

▷ 誰もが能力を発揮して働きやすい職場

教職員の業務の見直しを進め、デジタル技術なども取り入れて効率化し、教員が教育、研究に専念できる環境の実現、事務職員の時間外勤務の削減を進めます。また、それぞれの個性が尊重されるキャンパスをつくり、構成員が自らの能力を最大限に発揮して本分に専念することができるとともに、ワークライフバランスを実現できるように改革を進めます。

▷ 効率的な財務運営

コストの見える化を進め、経費の削減と重点的な投資などメリハリのある財務運営を進めます。競争的資金、民間資金、寄附金等の獲得力を強化して財源の多角化を進め、創意工夫に満ちた経営を行えるようにします。

長期的な更新・整備のための投資計画をたて、安全で快適なキャンパスの環境整備を進めます。

開かれた大学運営の実現

▷ 信頼される経営

コンプライアンスと危機管理能力を高め信頼される経営を進めます。経営協議会その他を通して積極的に外部の意見を取り入れるとともに、広報力を強化して分かりやすい情報の発信を進め、さまざまなステークホルダーとの強い信頼関係を築きます。

▷ 内部質保証

教育、研究、組織及び運営、施設及び設備の状況を継続的に点検・評価を行い、質の保証と改善、向上に取り組むとともに、それを社会に発信してゆきます。